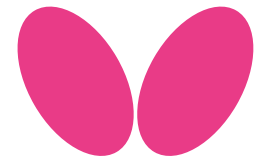


「Open the World—
この企業理念は、挑戦への
原動力です。卓球の持つ無
限の可能性を追求し、革新
的な用具の開発を通じて、
競技を世界規模で進化さ
せることが私たちの使命」

株式会社タマス
代表取締役社長
大澤 卓子



www.butterfly-global.com

follow us:



卓球革命の先駆者：バタフライが 描く競技の未来像とは

高品質へのこだわりと技術革新により、世界の卓球界を半世紀以上にわたってリードしてきたバタフライ。伝統の技と最新テクノロジーの融合により、同社は今、卓球の新たな道を切り拓こうとしている。By Cian O'Neill and Paul Mannion

卓

球界に技術革新の新たな潮流が到来している。その最前線に立つのが、世界的ブランド「バタフライ」として知られる株式会社タマスである。1



ミリ秒が勝敗を分けるハイスピード競技において、同社は選手のパフォーマンスを極限まで引き出す用具開発に邁進している。

「日本製品の卓越性を支える要因は三位一体」と大澤社長は語る。「最先端テクノロジーと伝統的な匠の技の融合、各工程における徹底した品質管理、そしてカイゼンの精神に基づく全社的な改善活動が源泉となっているのです」

この徹底した品質へのこだわりは、市場での圧倒的な支持となって表れており、同社が日本で製造するラケットとラバーは、世界大会で使用される用具の過半数を占めるまでに至った。

「スライバーは当社の技術革新の金字塔です。1967年の発売以来、この革新的なラバーが卓球界を変えてきたのです」と大澤社長は振り返る。「ハンガリーの三銃士」が東アジア勢の牙城を崩すきっかけとなったのも、このテクノロジーがあっただけでした」

バタフライの視線は製造業の枠を超え、グローバルな普及活動へと広がっている。「卓球は最小限の用具で狭小空間でも楽しめるスポーツ。現在では198の国と地域に展開し、世界中で愛されています」と大澤社長は力説する。

同社が運営する「バタフライ卓球道場」は、老若男女を問わず卓球の魅力を伝える拠点として機能し、世界規模の大会やイベントを通じて、競技精神とコミュニティの醸成にも注力。パンデミック後は各地でイベントを再開しており、タイ・バタフライオープンもその一環だ。さらに斬新な取り組みとして、パブリックスペースへの卓球台設置を推進しているのだという。

この発想のヒントはストリートピアノから得たのだと大澤社長は説明する。「公共空間に卓球台を設置することで、誰もが気軽に

にスポーツを楽しむ環境を創出したいと思ったのです」バタフライは、トップアスリートに最高峰の用具を提供するという創業以来の使命を堅持しつつ、そのレガシーを進化させながら、グローバルブランドとしての存在感をさらに高めていく構えだ。

